



IRPA Bulletin

For RP professionals, by RP Professionals



JUNE 2025

ISSUE #46



クロアチア放射線防護学会（CRPA）が第2回医学物理学・放射線防護ピクニックに参加

目次:

理事会からのメッセージ: CAMERON JEFFRIES氏 - 2

未来を照らす: IRPA YGNの躍動する近年を振り返る - 3

関連学会の最新情報: クロアチア放射線防護学会 - 7

NORMタスクグループからの報告 - 9

追悼: MARIE-CLAIRE CANTONE氏 - 12

今後のイベント - 14

翻訳: 藤田 博喜、編集: 藤通 有希、監修: 佐々木 道也 この"IRPA 会報"の日本語訳は、IRPA の公式的な翻訳ではありません。そのため、IRPA はその正確性を保証するものではなく、またその解釈や使用がもたらすいかなる結果についても、一切責任を負いません。

Translated by Hiroki FUJITA, edited by Yuki Fujimichi and reviewed by Michiya Sasaki. This Japanese translation of "IRPA Bulletin" is not an official IRPA translation; hence, IRPA does not guarantee its accuracy and accepts no responsibility for any consequences of its interpretation or use.

理事会からのメッセージ

CAMERON JEFFRIES氏

IRPA 会報の最新号へようこそ。今号で理事会からのメッセージをお伝えする機会をいただき、嬉しく思います。Claire-Louise氏は、IRPAタスクグループ (TG) の進捗状況に焦点を当てるなど、会員からのフィードバックに基づくコミュニケーション改善計画の優れた概要を提供してくれました。組織反応TGの成果として、水晶体、心血管系、皮膚の組織反応に関する認識に関する報告書が、*Journal of Radiological Protection*に論文として受理され、掲載されたことをお伝えします。[論文全文はこちらからご覧いただけます](#)。



組織反応TGの成果は、このTGの議長であったMarie-Claire教授の最近の逝去によって、悲しみにも包まれています。Marie-Claire氏とは、眼の水晶体に関する以前のTGのメンバーとして、また理事会のメンバーとして一緒に仕事をすることができました。イタリア放射線防護学会、国際放射線防護委員会、そしてIRPAから、Marie-Claire氏に多くの追悼の意が表明されています。彼女の温かく親しみやすい笑顔、ユーモアのセンス、そして私たちの専門家への献身を、私はきっと恋しく思うことでしょう。

専門分野への関心や専門知識を持つ国際的な同僚と出会い、つながり、協力し合えることは、長続きする関係や友情につながる人が多いです。放射線防護を向上させるためには、国際的な境界を越えて専門知識と知識を共有することが重要です。このことは、若い世代やキャリアの浅い専門家だけでなく、理事会のメンバーにも等しく当てはまります。自然起源放射性物質 (NORM) に関するTGは、長期的な専門家としてのつながりを築くための優れた事例を提供しています。

NORM TGは、NORMに関する実用的なハンドブックの作成に取り組んできました。ハンドブックを作成する一方で、専門知識を共有するための支援ネットワークも構築してきました。その結果、NORMに関連する多くの出版物が生まれました。ハンドブックが完成すれば、TGはIRPAのNORM支援ネットワークに移行する予定です。

IRPAは、放射線防護専門家同士の連携を支援するだけでなく、放射線防護専門家の代弁者としての重要な役割を担っています。IRPAは、IAEA、WHO、ICRPなど多くの国際機関と正式な関係を築き、会員を代表することができます。このような代表は、IRPAが変化や問題について会員の意見を聞くことに依存しており、これは主にIRPA TGsを通じて実現されています。

成果を会員と共有するルートはあまり明確ではありません。私はIRPAを代表して、2023年のIAEA放射線安全基準会議に出席しました。その会議では、IRPAからの見解を提供する機会が十分にありました。理事会には、問題に対する正式な立場を策定し、成果を会員と共有するプロセスを構築する機会があります。

最後に、理事会理事に連絡を取り、あなたの経験を共有し、質問し、コメントを寄せてください。

未来を照らす：IRPA YGNの躍動する近年を振り返る

Dr. V. P. Singh氏

IRPA 若手世代ネットワークリーダーシップ委員会

国際放射線防護学会若手世代ネットワーク（IRPA YGN）は、若い世代を通じて放射線防護の未来を切り開く活力ある存在であり続けています。世界中の学生や若い専門家間のコミュニケーション、協力、専門的な能力向上を促進することを目的とするIRPA YGNは、ここ数年で特に活発に活動し、インパクトのあるイニシアチブを推進し、世界的な存在感を強めてきました。IRPA YGNは、世界各国で若い世代のネットワークを発足させる原動力となり、放射線防護の専門分野における若手の参加を後押ししてきました。2021年半ば以降、IRPA YGNは活動を拡大し続けており、それ以前の期間については、Sylvain Andrezs氏らによる論文“[IRPA Young Generation Network : Activity Report from the Middle of 2018 to the Beginning of 2021](#)”に包括的な概要が記載されています。現在、IRPA YGNには、オーストラリア、中国、インド、日本、ケニア、ミャンマーから最近加入した7人を含む20人の委員がいます。これらのメンバーは、YGNの基準を満たさなくなった数名の引退メンバーとのバランスが取れており、それぞれの国（例えばガーナ）から新たな代表者を特定し、参加させるための努力がなされています。

つながる未来への戦略的ビジョン

IRPA YGNの最近の活動の要は、2022-2024年の包括的な戦略アジェンダの実施です。このアジェンダは、IRPAの広範な戦略プログラムに沿ったネットワークの取り組みの指針となっており、以下のような主要分野に重点を置いています。

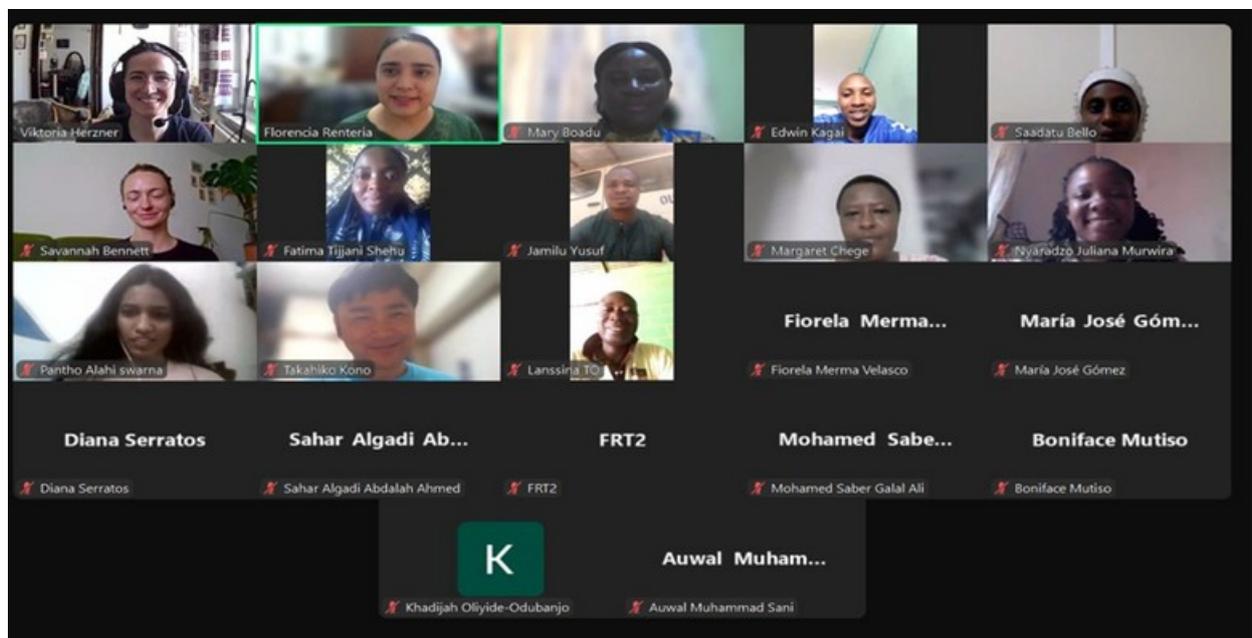


図1：ケニアの放射線防護・原子力安全ユースネットワーク（RPNS-YN）が主催する

第1回目ホリスティック放射線防護の視点ウェビナーシリーズ

未来を照らす：IRPA YGNの躍動する近年を振り返る

- **デジタル・エンゲージメントの強化**：コミュニケーション方法の進化に対応し、IRPA YGNはウェビナーやソーシャルメディアを活用して知識の普及、議論の促進、そして学生や発展途上国の専門家を含むより広範な聴衆への情報伝達を推進してきました。これには、これらのツールをIRPAの組織構造とどのように連携させるのが最適かを模索することも含まれています。最近の例としては、ケニアの放射線防護・原子力安全ユースネットワーク（RPNS-YN）と2024年に開始した協力関係があります（図1）。IRPAのYGNメンバーは、定期的に行われるウェビナーに講師として招かれ、国際交流と相互学習に貢献しています。また、その内容を各国のYGN内で共有することで、到達範囲と影響力を最大限に高めています。さらに、IRPA YGNは2023年2月7日から11日までムンバイのワーリにあるネールセンターで開催されたアジア・オセアニア放射線防護会議（AOCRP6）のハイブリッドYGNセッション（図2）と、インド・マンガルールで開催された第35回インド放射線防護学会（IARP）全国会議（図3）に積極的に参加し、地域および世界規模での対話を強化しました。このような交流やタスクグループへの積極的な参加は、IRPA YGNの広範な世界的関与の一部です。このような活動には、第35回IARP全国会議や、Camecoとカナダ放射線安全研究所（Radiation Safety Institute of Canada）が主催しICRPが後援する「放射線防護の未来を形作る：次世代へのアプローチ」といった国際的なイベントへの積極的な参加も含まれます（図4）。このようなプラットフォームは、知識の伝達をサポートするだけでなく、新たなつながりや将来のコラボレーションを促進します。

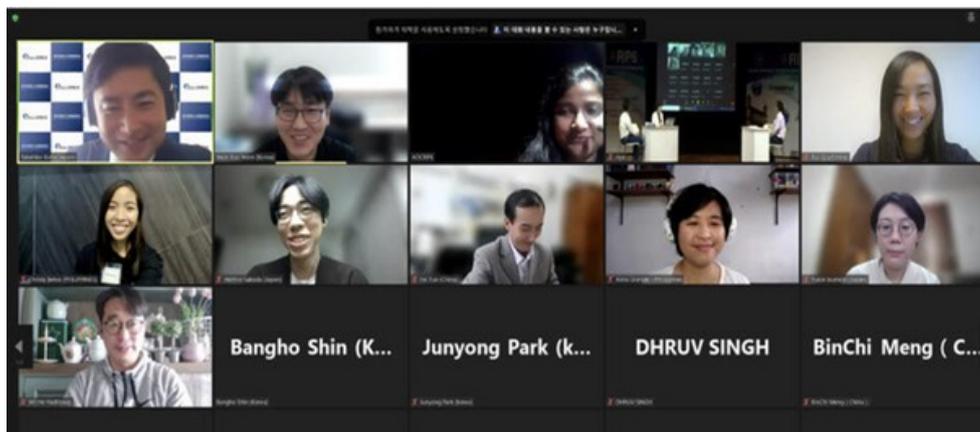


図2：アジア・オセアニア放射線防護会議

2023年2月7日～11日、インド・ムンバイ・ワーリにあるネールセンターで開催

- **各国YGNの強化**：中心的な目的は、各国の若手世代ネットワークを積極的に支援・奨励することです。IRPAのYGNは、こうした各国のグループ間の協力関係を促進し、ベストプラクティスを共有するとともに、機会があれば新たなネットワークの設立を支援しています。例えば、最近オーストラリアで若手世代ネットワークが設立されましたが、これは次世代の放射線防護専門家をつなぎ、力を与えようという世界的な機運と関心の高まりを反映しています。この経験などはSylvain Andresz氏らによる「[IRPA Young Generation Network: Activity Report from the Middle of 2018 to the Beginning of 2021](#)」にまとめられています。

未来を照らす：IRPA YGNの躍動する近年を振り返る

- **IRPA大会への参加促進**：当ネットワークは、IRPAの主要なイベントや技術ワーキンググループに若手専門家を積極的に参加させ、放射線防護に関する重要なトピックに新鮮な視点を提供することに尽力しています。特に、米国オーランドで開催されたIRPA-16大会（2024年）などのイベントでの対面での参加は、お互いを知り、共同でアイデアを練り、継続的なオンラインネットワークと協力の基礎を築く理想的な機会となります。
- **IRPAタスクグループへの参加**：リーダーシップ委員会のメンバーは、線源のセキュリティ、メンタリング、放射線防護訓練・教育、NORMなど、IRPAのさまざまなタスクグループに参加し、過去の経験や現在のシナリオを活用して、次世代に向けた質の高い文書や情報を作成しています。



図3：第35回IARP全国会議（インド、マンガルール）におけるハイブリッドYGNセッション

主なイニシアチブとコラボレーション

IRPA YGNは、その戦略目標に沿って、近年いくつかの注目すべきイニシアチブを先導してきました。

- **国際インターンシップと奨学金のミニ調査**：国際インターンシップ・奨学金ミニ調査：各国の学会からの直接的な要望に応え、IRPA YGNは2023年3月、放射線防護に関する利用可能な国際インターンシップ・奨学金プログラムに関する情報を収集するための貴重なミニ調査を実施しました。このイニシアチブは、若手専門家が成長と経験を積む機会をより多く得られるようにすることを目的としています。
- **EUTERPでの招待**：IRPA YGNは、EUTERP財団の招待を受け、ETRAP2021会議において「若い世代とソーシャルメディア」をテーマにプレゼンテーションを行いました。IRPA YGNはこのテーマでアンケート調査を実施し、その結果をIRPA YGNのウェブページに掲載するとともに、[Journal of Radiological Protection](#)に論文：[「ソーシャルメディアとオンライン学習における放射線防護の若い世代（IRPA YGN）：「ブレイブニューワールド」か「オンラインの悪夢」か？」](#)として掲載しました。



未来を照らす：IRPA YGNの躍動する近年を振り返る

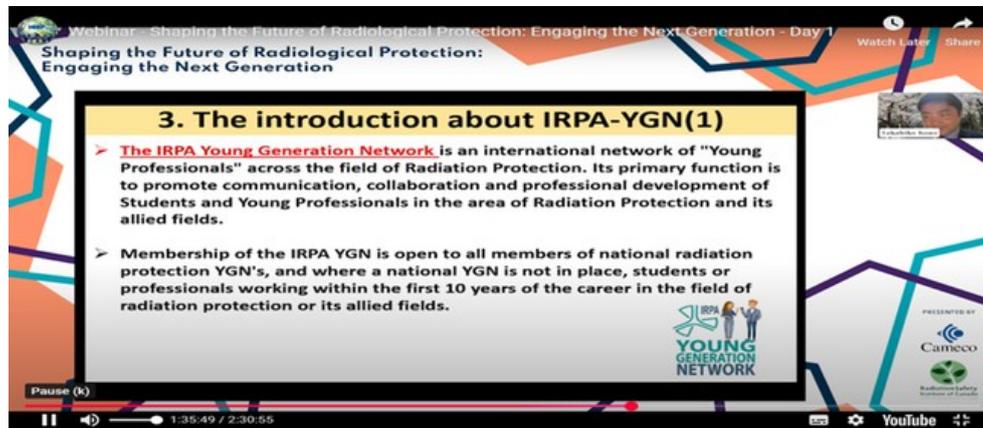


図4：RPの未来を形作る：2025年4月1日～2日にICRPにて次世代とのエンゲージメント

- 原子力・放射線関連組織との横断的協力：IRPA YGNは、欧州医学物理学連合（EFOMP）、欧州核融合教育ネットワーク（FuseNet）、欧州原子力学会（ENS）など、原子力・放射線関連の著名な団体の他の若手部会と積極的に協力しています。これらの連携は、原子力および放射線に関する専門用語の平易化、学際的な知識の交流促進、および本分野における多様なキャリアパスの提示を目的としています。この協力の顕著な成果として、「身の回りの原子力」というソーシャルメディアコンペティションを実施し、若者に対し、魅力的なコンテンツの作成を促しました。
- ポートレート・イニシアチブ：本継続的なイニシアチブは、放射線防護分野で活躍する若手専門家を紹介し、彼らの経験やキャリアパスを共有することで、次世代の育成とモチベーション向上を目指しています。
- ソーシャルメディアとオンライン学習に関する考察：IRPA YGNは、放射線防護分野の若手専門家によるソーシャルメディアおよびオンライン学習の利用状況を継続的に分析しました（「[放射線防護分野の若者：『新しい世界』か『オンラインの悪夢』か？](#)」）。この調査は、本分野における効果的なコミュニケーションと教育戦略に関する貴重な知見を提供します。

IRPA YGNは、次世代の放射線防護専門家の育成という使命に引き続き注力しています。戦略的な取り組み、協調性、そして最新のコミュニケーションツールを活用する姿勢を通じて、このネットワークは、世界的な放射線防護の強靱で革新的な未来を確かなものにする上で重要な役割を担っています。理想的には、各国はIRPA YGNリーダーシップ委員会に少なくとも1名のメンバーを派遣すべきです。現在のメンバーリストは[IRPA YGNのウェブサイト](#)で確認できます。私たちは、各国学会およびネットワークに対し、IRPA YGNへの参加に有望な若手専門家を特定し、推薦するよう継続的に奨励し、幅広い国際的な代表性と持続可能なリーダーシップ開発を促進することを目指しています。



学会最新情報：クロアチア放射線防護学会

2025年におけるクロアチア放射線防護学会（CRPA）の活動：教育、科学的共同研究、専門家派遣の強化



2025年、クロアチア放射線防護学会（HDZZ）は、教育、国際協力、市民参加を通じて放射線防護の分野を推進し続けました。

今年のハイライトの一つは、3月15日にザグレブのドブラヴァ臨床病院で開催された第2回医学物理学・放射線防護ピクニックでした。CRPA、クロアチア医学物理学学会（CROMPA）、およびドブラヴァ病院KBが共同で主催したこのイベントは、医学物理学と放射線防護に関する若者の意識を高めることを目的としていました。学生や一般の人々を含む約150人の参加者が、ラドン測定、放射線画像、患者の防護、放射線治療における線量測定、環境放射能モニタリングなどのトピックに関する講演やインタラクティブなワークショップに参加しました。このイベントは、専門家、学生、そして一般の人々の間で直接的な交流を成功裏に促進し、この分野への関心を高めることにつながりました。

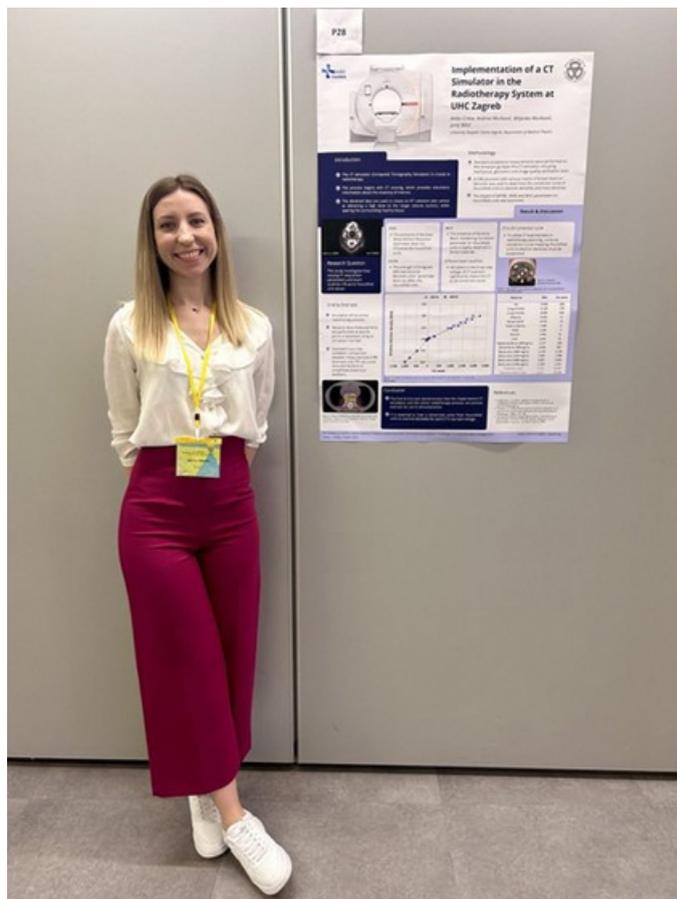
4月1日から4日まで、CRPAは、科学技術・教育・青年省の保護を受けて、ヴォディチェで第14回国際参加シンポジウムを開催しました。このシンポジウムは、ルジェール・ボスコビッチ研究所（RBI）、医学研究・職業衛生研究所（IMI）、およびCROMPAと共同で企画されました。クロアチア国内外から70人以上の参加者を集め、口頭発表28件とポスター発表29件が行われました。国際的な交流と参加を促進するため、すべての発表は英語で準備されました。シンポジウムの主要テーマは「放射性廃棄物管理における課題」であり、著名な専門家による基調講演を通じて取り上げられました。Russell Alexander博士は「工学的障壁システム（EBS）の自然な類似体」について講演し、Želimir Veinović博士は「放射性廃棄物および使用済み燃料の管理における知識、情報、教育」について議論しました。放射線線量測定セッションでは、ベルギー原子力研究センターのLuana de Freitas Nascimento博士が「生体内リアルタイム線量測定のためのシンチレーター：従来のシンチレーター、フラッシュシンチレーター、粒子線治療」というタイトルの基調講演を行いました。最終日の放射線医学保護セッションでは、Boris Brkljačić教授が「放射線検査の正当化：EU-JUST-CTプロジェクトの結果」について基調講演を行いました。

学会最新情報：クロアチア放射線防護学会

科学プログラムは、放射線科学の一般的な問題、放射線の生物学的影響、公衆被ばく、放射線生態学、ラドン、計測技術、測定技術など、幅広いトピックを網羅的に扱っており、多様性に富んでいました。



Nikola Šegedini氏とIvana T氏



Anita Crnov氏

このイベントでは、HDZZ総会も開催され、会員は過去の任期の報告書をレビューし、新たな執行部を選出しました。Ivana Coha博士が議長に再選され、Tomislav Bituh博士（副議長）、Andreja Sironić博士（書記）、Iva Franulović（会計）、Ivana Tucaković博士（総会議長）が主要な役割を担いました。新たな経営委員会と監視委員会も任命されました。

シンポジウムは、若手研究者向けの賞の授与で締めくくられました。Nikola Šegedin博士が優秀な口頭発表賞を受賞し、Anita Crnov氏が優秀なポスター賞を受賞しました。

これらのイベントを通じて、CRPAは知識の交流の支援、放射線防護における最良の事例の推進、そしてこの分野の新たな世代の専門家の育成というその使命を改めて確認しました。

放射線の影響を受ける産業における放射線防護に関するIRPAタスクグループ

JIM HONDROS氏とRAINER GELLMANN氏



2024年オランダで開催されたIIRPA大会におけるNORMタスクグループのメンバー
(左からRainer Gellermann氏、Rosabianca Trevisi氏、Philip Egidi氏、Drew Watson氏、
Jim Hondros氏)

背景

自然起源放射性物質（NORM）は、通常放射能とは関連付けられない多くの鉱業および工業プロセスに存在します。ここ数十年で、これらの分野に放射線防護の原則を適用する必要性が高まっています。さらに、過去の産業活動の跡地に関する懸念も存在します。

NORMに対する放射線防護は、原子力産業や医療用途における放射線防護とは異なります。一般的に、「非放射性」産業の作業員や一般市民を含む社会全体は、NORMの比較的低い危険性を認識していませんが、「放射性」という言葉を聞くと、最悪の事態を想定する傾向があります。そこで、IRPAは2019年、世界各地の専門家からなるタスクグループ（TG）を設置し、NORMに関する以下の課題に取り組みました。

- NORMの影響を受ける産業における放射線防護に関する経験をまとめ、実務指針のライブラリを構築する。
- 世界中でNORMに関する認識を高め、NORMの安全かつ適切な管理に関する共通理解を醸成する。
- NORMに関する取り組みが新しい国を支援する。
- 専門家間のネットワークを構築し、既存および良好な実務事例を共有する。

この作業部会は2020年に発足し、全大陸からメンバーが集まっています。共同議長は、ドイツのRainer Gellermann氏とオーストラリアのJim Hondros氏です。IRPA理事会のメンターは、Cameron Jeffries氏です。発足以来、多くの新たなネットワークや友情が育まれるなど、グループは着実に拡大を続けています。

放射線の影響を受ける産業における放射線防護に関するIRPAタスクグループ

JIM HONDROS AND RAINER GELLERMANN

ハンドブック・プロジェクト

この作業部会の主要な目標の一つは、実務者向けのハンドブックの作成です。このハンドブックは、実務者の視点からNORMに適用される放射線防護の基礎をまとめたものであり、実践的な経験や評価の収集も含まれる予定です。

このハンドブックでは、以下の主要な分野を網羅します。

- 放射線と放射線防護の基礎、および産業（鉱業を含む）におけるNORMの概要について解説します。
- 段階的アプローチ（GA）は、放射線防護の理念と運用上の放射線防護において重要な要素です。そのため、この重要な手法について特別の章を設けて解説します。
- NORMは通常、複数の放射性核種から構成され、容易に測定できる核種が限られているため、NORMの特性評価は特に課題となります。このハンドブックでは、この課題を実務的に解決するためのいくつかの提案を行います。
- NORMの正確な特性評価に基づいて、運用上の放射線防護を計画、実施することができます。この点に関連して、「NORMをどのように管理するか？」という問いについて議論します。
- 高い実用的な意義を持つもう一つの項目として、NORMを含む廃棄物の処理と処分があります。特に、危険物規制の要件に従ったNORMの輸送が重要な課題です。このハンドブックでは、NORMに特化した分野について概要を提供します。
- さらに、NORMの管理には、一般の人々だけでなく、NORMを含む製品を専門的に利用する労働者や消費者への情報伝達が不可欠です。NORMを含む製品の取引は、したがって特別な章となります。
- 最終章では、世界各地の放射線防護の現状について概観します。



2024年、オーランドで開催されたIRPA会議でプレゼンテーションを行う
Francis Ottoo氏（左）とAnalia Canoba氏（右）



放射線の影響を受ける産業における放射線防護に関するIRPAタスクグループ

JIM HONDROS AND RAINER GELLERMANN

TGの目標は、2025年10月にIAEA Accra NORM会議で意見交換できる草案を、そして2026年のIRPAヨーロッパ地域会議で最終版を公開することです。

ハンドブックが完成すれば、TGは主要な任務を完了するものと予想されます。しかし、TGのメンバーはいくつかの可能性について議論しており、IRPAの「ネットワークグループ」として活動を継続することを提案しています。これにより、メンバーは引き続き交流し、コミュニケーションを取り、ハンドブックプロジェクトをさらに発展させることができます。さらに、IRPAの支援の下で、NORMに関する重要な課題に取り組むことができます。そのような課題には以下が含まれます。

- ICRPの防護体系におけるNORMに関する実務者の声を継続すること
- NORM分野における実務者の声を届けることを継続すること
- NORMに対する段階的なアプローチに関する明確化と実用的なアドバイスを提供すること
- NORMとESD（循環型経済）に関する研究を進めること

結論

TGの全メンバーは、IRPA理事会への継続的な支援に対し、心より感謝申し上げます。現在および過去のIRPA理事会理事のリーダーシップと活動の自由、特にRoger Coates氏とBernard Le Guen氏からの貢献は、TGの基盤となるものであり、深く感謝しております。また、Cameron Jeffries氏からの支援と励ましに心より感謝申し上げます。



2024年、オーランドで開催されたIRPA会議でプレゼンテーションを行うRainer Gellermann氏



追悼 : MARIE-CLAIRE CANTONE

国際放射線防護学会（IRPA）は、2025年5月12日、イタリアのミラノ近郊の自宅で亡くなられた、長年にわたり世界的な放射線防護コミュニティから深く尊敬されていたMarie-Claire Cantone教授の逝去を深く悼みます。



Cantone教授は、2016年から2024年までIRPA理事会の理事として、世界的な放射線防護の推進という学会のもっとも重要な使命に大きく貢献されました。彼女のリーダーシップと献身は、各国機関と国際社会との連携を強化する上で中心的な役割を果たし、特に教育、コミュニケーション、そして国境を越えた専門能力開発の促進に尽力されました。また、放射線医学の重要な分野における保護基準の向上への貢献を反映し、IRPAの「眼の水晶体」に関するタスクグループの共同議長も務められました。

Marie-Claire教授は、精力的な活動、深い専門知識、そして温かい人柄で広く知られていました。彼女はこれらの資質を、国際放射線防護委員会（ICRP）での広範な活動にも注ぎ込みました。ICRP第3専門委員会のメンバーとして2017年からご活躍され、タスクグループ109の共同議長を務める一方、タスクグループ114にも貢献されました。彼女の組織力は、

2022年の主委員会会議や2024年の第3専門委員会会議など、主要なICRPイベントの調整にも表れており、これらには地域社会の参加とグローバルな協力の促進を目的としたワークショップが組み込まれていました。

Cantone教授は、自国イタリアの放射線防護学会（AIRP）においても、2013年から2015年まで会長を務め、以前は副会長および理事を務めていました。AIRPでのご活躍は、強固で包括的な専門家コミュニティの構築に向けた生涯にわたる献身を反映しており、これらの価値観はIRPAへの参画においても同様に発揮されました。

学術界では、Cantone教授はミラノ大学に長年在職し、数世代にわたり医学物理学の分野で教育と指導を行ってきました。2006年から2013年にかけて、医学物理学専門学校を率い、その成長を寛容さと学際的な卓越性に対する明確なビジョンをもって導きました。

Marie-Claire教授は、放射線防護の科学的、倫理的、社会的なあらゆる側面において情熱的な提唱者でした。彼女は、患者や労働者だけでなく、一般の人々や環境も保護するための取り組みを推進しました。数多くの国際的な役割を通じて、放射線安全における思慮深く、包括的で、証拠に基づいたアプローチの重要性を高めました。



追悼 : MARIE-CLAIRE CANTONE

IRPAコミュニティは、Cantone教授を、その知性、誠実さ、そして私たちの分野に与えた永続的な影響のために、深い敬意と愛情をもって偲びます。彼女の功績は、彼女が指導した多くの専門家、彼女が関与した政策の形成、そして彼女が深く豊かにした世界的なコミュニティの中で生き続けます。

彼女のご家族、同僚、そして彼女を知り、共に仕事をする機会に恵まれたすべての方々に、心よりお悔やみ申し上げます。



Marie-Claire Cantone教授が、長年にわたり様々なIRPAのイベントで写っている写真コラージュです。最新の写真は、2024年7月にフロリダ州オーランドで開催されたIRPA第16回/第69回HPS年次総会でのものです。

著作権: Bernard Le Guen





IUPESM 2025

**World Congress on Medical Physics
and Biomedical Engineering**

29 September – 4 October 2025
Adelaide Convention Centre, Australia

 **ENGINEERS
AUSTRALIA**

 **ACPSEM**
Australasian College of Physical
Scientists & Engineers in Medicine

www.wc2025.org
[#IUPESM2025](https://twitter.com/IUPESM2025)



Host Organisations



Supported by



今後のイベント

ICRP 2025

8TH INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON THE SYSTEM OF RADIOLOGICAL PROTECTION

7 - 9 OCTOBER 2025

Abu Dhabi, UAE - The Ritz-Carlton, Grand Canal

Hosted By:



ICRP2025

7-9 OCTOBER 2025 • ABU DHABI, UAE

Advancing Radiological Protection: Innovation, Integrity, Sustainability

PRELIMINARY Programme

GST	Tuesday 7 October	Wednesday 8 October			Thursday 9 October		
8:30	Welcome	Effects I	Environment	Dosimetry I	RP Concepts III	Highlight I	Applications I
9:00	Bo Lindell Lecture	Bill Morgan Memorial Lecture • Effects Overview • Radiation Detriment	Evolution of RAPs & DCRLs • Ecosystem Services • Practical Application	Occupational & Public • Medical • Emergency	Individualisation & Stratification: Science & Implications	Inside ICRP & the Framework of International Organisations	Armed Conflict • Malicious Events • Preparedness, Response & Recovery
10:00	Coffee Break 10:30 - 11:00	Coffee Break 10:30 - 11:00	Coffee Break 10:30 - 11:00	Coffee Break 10:30 - 11:00	Coffee Break 10:30 - 11:00	Coffee Break 10:30 - 11:00	Coffee Break 10:30 - 11:00
11:00	Review & Revision of the System of Radiological Protection	Effects II	Medical I	Dosimetry II	RP Concepts IV	Highlight II	Applications II
11:30		Low Dose & Dose Rate • High Background Areas	Optimisation in Imaging • Imaging in Radiotherapy • Recurrent Imaging	Environmental Protection • Operational Quantities	Exposure Categories & Situations	RP Culture • Education • Training • Communications	Space Exploration • NORM
12:00	Lunch 12:30 - 14:00	Lunch 12:30 - 14:00	Lunch 12:30 - 14:00	Lunch 12:30 - 14:00	Lunch 12:30 - 14:00	Lunch 12:30 - 14:00	Lunch 12:30 - 14:00
13:00	Finalists for the Cousins Award for Young Scientists and Professionals	Effects III	Medical II	RP Concepts I	RP Ethics I	Highlight III	Applications III
14:00		ICRP/UNSCEAR Collaboration	Proton and Heavy Ion Therapy • Emerging Therapies • Second Primary Cancer	Justification & Optimisation of Protection	Reasonableness & Tolerability	RP Challenges & Opportunities in the UAE & GCC	Remediation of Legacy Sites • Waste Management
15:00	Coffee Break 15:30 - 16:00	Coffee Break 15:30 - 16:00	Coffee Break 15:30 - 16:00	Coffee Break 15:30 - 16:00	Coffee Break 15:30 - 16:00	Coffee Break 15:30 - 16:00	Coffee Break 15:30 - 16:00
16:00	Sustainability & Vancouver Call for Action	Emerging Experts	Medical III	RP Concepts II	RP Ethics II	Highlight IV	Applications IV
16:30		The Next Generation of Scientists & Professionals	Occupational RP • Health Surveillance of Exposed Workers	Sources and Impacts of Uncertainty	Ethics in RP in Medicine and the Practice of RP	Artificial Intelligence in RP	Implementing RP Recommendations in Regulation
17:00							
17:30							
18:00							

ニュースをお送りください!!

共有したいニュースはありますか?



下記までお送りください: cop@irpa.net

IRPA NewsとIRPA 会報でご紹介します。会報の記事は通常、200～300語と画像です。

ソサエティスポットライトでは、加盟学会からの最新情報を募集しています。貴学会の活動をお知らせください。

会合、会議、一般的なイベント、または良いニュースはいつでも大歓迎です!

IRPA出版委員会:

IRPAコミュニケーションオフィサー: **Dave Niven**

会報編集部: **Andy Karam、Dave Niven**

関連学会リエゾン: **Michèle Légaré**

ウェブサイト管理者: **Dave Niven**

ソーシャルメディアマネージャー: **Sara Dumit & Dave Niven**

素晴らしいニュースです! PayPalを通して、IRPAモントリオール基金に直接ご寄付いただけるようになりました! 昨年より、個人でのモントリオール基金への寄付がより簡単になりました。下の寄付ボタンをクリックするだけで、PayPalを通して寄付をすることができます。

ご寄付は、2026年のIRPA地域大会、2028年のIRPA第17回国際大会など、今後開催されるIRPA大会に、他の方法では参加できない方々の参加を増やすために役立てられます。支援の必要性はますます高まっており、皆様のご寄付が急務となっております。

